

APU通信では、前々号よりリレー形式で『教員の視点から見たAPU』をお届けしており、新任教員からの報告については今号で完結となります。

**なお、2014年度APUオープンキャンパスが①7/21(祝月)、②8/3(日)、③11/3(祝月)に開催されます。オープンキャンパス専用ツアーも受付中です(先着順、定員あり)。**

オープンキャンパスの申込・詳細は、[APU mate.net](http://www.apumate.net) で検索して、「イベント情報」のページをご覧ください。 [http://www.apumate.net/event\\_info/opencampus.html](http://www.apumate.net/event_info/opencampus.html)

## APUの魅力を語る

立命館慶祥中学校・高等学校 佐藤毅己

### 1 はじめに

APU(立命館アジア太平洋大学)は大分県別府市の美しい海の風景を望む高地にある国際色豊かな大学だ。世界中の様々な国からの正規留学生(国際学生)と日本人学生(国内学生)がともにキャンパスライフを謳歌している。それでは早速、APUの魅力をご紹介します。



### 2 日本国内にあって日本じゃない、多様な異文化体験によるグローバル人材の育成

APUは2000年4月の開学以来、世界中の様々な国・地域から国際学生を受け入れており、現在では84か国・地域、2,466名の国際学生が学んでいる。国内学生3,130名を加えた5,596名がAPUの学生だ。開学以来の国際学生在籍国・地域は延べ130か国・地域にのぼる。キャンパス内はまさに異文化のモザイクである。授業で、カフェテリアで、寮生活で、誰もが日々異文化を体験する。時には摩擦が生じることもあるが、その解決を通して論理的思考力や判断力、コミュニケーション能力といった、これからのグローバル人材に必要な資質能力が養われる。

### 3 Active Learning(学生を学外に出して体験させる)の推進

APUはインターンシップや学生生活・学習で得た異文化体験を更に深化するための海外留学制度、専門研究が行われている現場での研修活動など、学外に留まらない、多様な学習機会を提供している。APUに籍を置いたまま、海外の別の大学に留学することも可能だ。そのような国際通用性のあるAPU教育システムは海外でも評価が高い。



### 4 英語も外国語も～APUにおける二言語教育～

APUは日本語にも英語にも偏らない、二言語教育を推進している。国際学生は日本語の習得、国内学生は英語力の向上をAPU入学の動機の一つとしているからだ。国際学生の中には入学後わずか半年にして流暢な日本語を話し、専門的な日本語での講義についていけるようになる学生もいる。国内学生も同様だ。日本にいながら本格的な英語での授業を受け、国際学生との英語での日常的なコミュニケーション等により、英語力は飛躍的に向上する。

### 5 高い社会的評価～企業が求める優れた人材の輩出～

APUの優れた教育システムは、専門知識の習得に留まらず、論理的思考力や判断力、異文化体験を通じて得られる精神的な強さ等、現代社会が求める人材を数多く輩出し、高い社会的評価を得ている。就職難のこの時代において、就職決定率が92%を超えていることがその証である。企業が求めるグローバル人材の輩出、それがAPUの大きな魅力だ。



### 6 終わりに

APUに学ぶ学生たちから直に話を聞いた。誰もが生き生きと日々の学生生活を送っていた。APU以外にも積極的に学ぶ場を求めて留学したり、インターンシップに参加したりと実に積極的であった。誰もが生き生きと自分の可能性に挑戦できる大学、APUの魅力を一言で表すと、そういうことになるのかもしれない。

# APU通信

平成26年 5月  
立命館宇治中学校・高等学校  
福島 賢

APU（立命館アジア太平洋大学）へ行ってきました！！

みなさんは立命館の附属校生です。そこで、先生はみなさんの代わりに、APUの見学をしてきました。今回はそのAPUの魅力に迫りたいと思います☆新聞や雑誌にも取り上げられているこの大学の魅力とはなんだろうか？それをまとめると「あい」です。この通信を読んで、将来、先輩たちと同じように、APUでイキイキと大学生活を送り成長してくれる人が一人でも多くいれば幸いです♪



## 世界との出会い

APUの学生は、世界86カ国・地域から集まり、45%が国際学生です。キャンパスを歩けば、国際学生がたくさんいるだけでなく、国内学生と笑顔で会話している様子にたくさん出会うことができます。そうです、まさにここは、小さな世界です。授業の中でも、高校までに学んできた知識や経験を生かしながら、国際学生と共にディスカッションをします。サークルやボランティアにおいても、互いに意見を言い合いながら、活動しています。また、「APハウス」という寮があり、国際学生と国内学生が互いの違いを認め合いながら、一緒に住んでいます。「言葉の違いだけでなく、文化の違い、考え方の違いというように、違いに出会うことができました。」と言っていた先輩もいました。違いを通して、自分との出会いもできる場所がここにはあります。



## 学び合い、支え合い、助け合い、刺激し合い

APUには、共に成長することができる環境が整っています。図書館には、グループで勉強できる共同学習の部屋やプレゼンテーションをみんなで練習できる部屋があります。もちろん、パソコンを使つての個人学習の部屋もあります。図書館以外にも、言語自主学习センターといって、国内学生に国際学生の学生スタッフが英語を教えたり、国際学生に国内学生の学生スタッフが日本語を教えたりする部屋もあります。授業においては、国内学生と国際学生が混合班をつくり、グループディスカッションを行うため、互いの意見を主張し学び合うだけでなく、そこには歩み合い、助け合いが生まれます。「留学をする友だちもたくさんいます。授業でもプレゼンテーションやディスカッションが多く、内向的な性格が変わりました。」と言っていた先輩もいました。このように世界に目を向け、どんどんチャレンジをしていくというAPU独特の雰囲気も感じることができました。学びたい、成長したいと思っている人にとって、自分の力を思いきり伸ばすことのできる環境・雰囲気がここにはあります。



## 世界を見つめる、未来を見つめる目 (eye)

様々な国の人たちと触れ合うことで、考え方や文化を知ることができるだけでなく、人の繋がりを得ることができます。先輩の中には、大学で得た知識や言語能力だけでなく、繋がりも将来に活かしていこうと考えている人もいました。国際ボランティアを学生の力だけでやっている団体もあり、現地の国民性を理解し、必要な支援を行っていくといった経験を将来に活かしていこうと考えている人もいました。大学の学生にインタビューをすると、多くの学生が、世界に目を向け、世界を繋げていく仕事をしたいと考えていました。そして、インタビューに的確に答えるコミュニケーション能力も素晴らしいと思いましたが、自分の過去、現在、未来をしっかりと見つめた上で、自分の夢、ビジョンを語る事ができるという点がすごいと思いました。APUという大学に所属し、それぞれがよく努力しているからこそ、そこまで成長できているのだと思いました。

みなさんも機会があればぜひ、APUの魅力を実感するために、大学を訪れてみてください。そして、学生の話がたくさん聞いてみてください。



## 首相も認める APU の魅力とは？



—「日本人はもっと自信を持って、自分の意見を言うべきだ。」立命館アジア太平洋大学でミャンマーからの留学生ミンさんがこう語ってくれました。教員も、学生も、半分近くが外国籍。文化の異なる人々と

の生活は、日本の若者たちに素晴らしい刺激となっています。一国会における内閣総理大臣施策方針演説より引用（2014年1月25日）

今、APU が注目されています。皆さんのほとんどは立命館大学を進学先に考えていることと思います。が、立命館には大学が2つあります。この通信では、立命館にあるもうひとつの大学「立命館アジア太平洋大学（APU）」の魅力について皆さんに知っていただき、高校生になって改めて大学を「選択」する経験をしてもらいたいと考えています。

「選択」は人間が自立するうえで極めて重要な行為であると私は捉えています。何かを「選ぶ」ことで、自分の意思があらわになるからです。さらに、「選択」には自己責任が必ず求められます、どのようなことが起ころうとも、結果は自分が引き受けなければなりません、自分で決めたことですから。「選択」と「責任」は大人へのキーワードです。

4月28日から2日間、APUについてよりよく知るために実際に訪れてきました。APUの



魅力を一言で言えば、「自分とは何かを問われ続ける経験」であると思います。食堂ではさまざまな国籍の学生たちが集い、日本語、英語、それ以外の言語が飛び交っていました。ランチメニューも各国の食文化を反映しています。まさにアジアの縮図のようなキャンパスでたった2日間過ごただけで、私は、日本人として見られている自分を意識せざるを得なくなりました。

自分にとって正しい「選択」をする際のメルクマールは、自分を深く知っていることです。人は皆幸せに生きることを願っています。自分にとって納得のいく人生を送れたか否かは、自分にとって納得のいく「選択」をしたか否かと同義です。また、自分を知るためには、自分の過去、現在、未来についてきちんとストーリーを描く力も必要となります。この通信の後半では、実際に APU を「選択」した学生、OB へのインタビューを掲載しています。他大学で過ごしても「選択」のための「自己理解」が必要となることはありますが、寮生活も含め、APU ほど日常的にアイデンティティを考えることはないでしょう。

## APU の魅力を数字で見よう

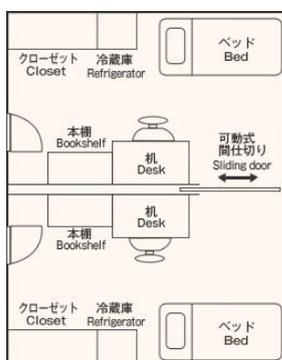


**50**%、2人に1人が国際学生。世界84カ国、地域からの国際学生2,466名と日本人学生3,130名、合計5,596名が学ぶ。そのうち97%は短期留学ではなく、4年間APUで学ぶ正規留学生である。

**2**回の入学（春・夏）と卒業を実施、クォーター制（2ヶ月）、とセメスター制（4ヶ月）の両方を導入している。1講座の期間を短くすることにより、柔軟な学習スケジュールを組むことができる。同一科目の週内の授業が多くなることで、特に語学に関して短期間で飛躍的に運用能力を伸ばすことが可能になる。

**2**つの学部と言語で学ぶ。  
アジア太平洋学部（600名）と国際経営学部（600名）の2学部8コースからなる。日英二言語で英語・日本語を徹底的に鍛える。外国人教員は全教員の約半数を占め、講義形式の授業の90%は日・英両言語で開講。

**59**カ国、1,219人の学生が暮らす、学生寮APハウス。国内学生（日本人学生）と国際学生（留学生）がペアになりルームをシェアし、互いの生活習慣や価値観の違いを知る。上級生がアシスタントとなり24時間寮生活をサポートし、学生が自主的にともに暮らすためのルールを作り運営する。



**93**%の就職内定率、国内学生95.1%、国際学生90.3%  
400社以上の企業が大学を直接訪れて就職説明会を実施、約170の企業・団体に延べ1,600名の学生をインターンシップとして派遣。

# APU の魅力を生の声で聞いてみました

## 過去と未来が繋がる APU での学び ～在校生へのインタビューから～

APU サークル事務局 SOSC 代表 内田 翔太郎さん（4 回生）へのインタビュー



内田さんは APU のサークル活動全体に支援を行う SOSC(Student Organization Support Committee)の代表を務めています。

Q:なぜ APU を選びましたか？

A:一つは学部間の敷居が低く、入学して学びながら自分の専攻を決めることができるからです。高校時代に法律、文学、経済等さまざまな分野に興味があり、何が本当にやりたいことか決めきれない僕にとって魅力的に映りました。もうひとつは、世界の縮図のような環境の APU で、さまざまな国の人たちと生活したとき自分がどのような立ち位置にいるのかを知りたかったことも、APU を選ぶ大きな理由になりました。

Q:大学の授業で特徴的なことは？

A:授業中に学生が質問や自分の意見を自由に述べられる雰囲気と、学生と教授との距離がとても近いことです。研究室に気軽に相談に行ける雰囲気や、食事をご一緒する機会もありました。

Q:卒業後のビジョンは？

A:僕は作家を志望していて、今は作品のモチーフ探しをしています。就職は、ベンチャー企業から内定をもらっています。東京オリンピックまではその企業で働き、社会人としての経験を生かして、作家として生きていくことを夢見ています。

Q:この大学をもっと良い大学にするためにはどんな点を改善すべきか？

A:改善の前に、「良い」という定義がそもそも難しいと思います。端から見た「良さ」よりも、実際に生活している学生が感じる「良さ」を大切にしたいと思っています。まずはみんなでどういう大学にしたいかを話し合い、実践していくことが大切だと感じて、今サークル事務局の仕事をやらせていただいています。

内田さんの落ち着いた態度や語り口は、自分をよく理解していることから生まれる自信に満ちていました。インタビューでご自身でも話されていた、多様な価値観の中で、自分の立ち位置をしっかりと持てた経験がその背景にあることを強く感じました。また、社会人として会社で働くことの延長線上に、高校時代に興味を持った分野のひとつにあった作家の夢の実現があるというキャリアプランをお聞きして、APU での学びが過去と未来を繋ぐ役割を担っていることもわかりました。

## 社会生活に繋がる APU での学び ～卒業生へのインタビューから～

### 【立命館宇治高等学校 東 修平先生へのインタビュー】



東先生は 2014 年 3 月に APU を卒業し、4 月から立命館宇治高等学校で英語教員として社会人生活をスタートしました。東先生に、APU での学びが今の仕事にどう活かされているか尋ねてみました。

Q：東先生が感じる APU の魅力とは何でしょうか？

A：まず、どのようなことに対しても、絶対がないことを身を持って経験できました。時間を守ることすら文化によっては大切なことではないので、文化の違いをめぐってトラブルも起きましたが、既成概念にとらわれない多面的な視点を身につけることができたと考えています。さらに、在

籍者の半分以上が留学生ですので、授業等で日本人がマイノリティの立場になることもあります。弱者の立場についても頭で理解することと実際に感じることの違いを経験することができました。

Q：教員となって、APU での学びが生きていると感じたことはありますか？

A：はい、非常に役立っています。一見問題があると思われる生徒の言動にも、きちんとその背後に理由があることに考えが及びますし、いじめや阻害されていると感じるときの生徒の置かれている立場や状況を敏感に感じとることができているように思います。

Q：最後に、立宇治生に APU の魅力についてひとことお願いします。

A：立宇治で生活を送るにつれて、APU と環境がとてもよく似ていると思うことが多くなりました。バカロレアの生徒、イマージョンの生徒、サンガユースの生徒など、同じ国籍でも多様な価値観を持つ学友と接している今の生活に楽しさを感じているのであれば、APU を選択肢に入れることを強く薦めます。世界中の人々と接することで、さらに刺激的な学びが生まれますし、卒業後も世界中に人脈ができます。

この記事を読んで APU についてもっと知りたいと思った生徒には、夏・秋のオープンキャンパスや、APU の寮に泊まり現役学生と学ぶサマーキャンプに加えて、大阪で 6 回の大学説明会も開催されます。詳しい内容については、キャリア教育部の先生に質問したり、または、以下の APU のホームページで検索してみましょう。

[http://www.apumate.net/event\\_info/index.html](http://www.apumate.net/event_info/index.html)

B o r d e r s      B e y o n d  
あなたの過去と今を      超えて生きたいなら  
A n o t h e r      R  
APU という選択もある

【文責 立命館宇治高等学校 教諭 仲田 毅】

# 『目で話す』

立命館小学校 國方善博

APU に到着。あたり一面の霧。幻想的な光景に不思議な感覚を覚えました。(現地では、霧は珍しくないそうですが…)。さあ、今日から2日間の研修が始まります。

講義、授業、APU 学生との交流など…話し合い、音、ビジョン、空気、におい、手触り、味?…APU の魅力を全身で感じました。『およそ2人に1人が国際学生。小さな地球のようなキャンパスがあなたを待っています。』まさにその通り!そして、その多様性と個々の学生の自主性はもちろんのこと、異文化の中で真剣勝負。ぶつかり合い、競い合い、そしてお互いに認め、支え合う。その繰り返しで常識を超えた高いレベルを保ち、モチベーションを高め合う空気を肌で感じました。



例えば、「キャンパス内での学生インタビュー」では、アトランダムにインタビューをしましたが、どの学生も自分の考えをしっかりと持っていて(国際学生・国内学生にかかわらず)APU に対する熱い思いを語ってくれました。「APU 学生団体プレゼンテーション」では、国際 NGO として APU に創設された学生団体『PRENGO』の目的や活動内容のプレゼンテーションを所属学生2名が行いました。タイの貧困地域において「地域住民主体による教育機会の創出および教育環境の向上」という理念を掲げ教育支援活動を展開している積み重ねが良く伝わりました。「附属校出身生によるプレゼンテーションと座談会」では、附属校出身生3名が APU を選んだ理由や魅力、また APU での具体的な活動など三者三様のプレゼンテーションが行われました。

どの学生も、自分をしっかりと見つめ、そして受け入れ、なおかつ世界の仲間たちと共に真剣勝負の繰り返しで、チャレンジし続けています。バイタリティーあふれる空気がキャンパス内に広がっていました。それが特別ではなく当たり前のように…。そして、特に印象に残ったのは、どの学生もしっかりと目を見て話をしてくれました。その目の奥には希望に満ちあふれ、頼もしく感じました。

短い期間でしたが、大きな夢を持ち、考えて、悩んで、判断して、失敗を恐れずに行動する基礎基本を個々の発達段階に応じて、共に学ぶことの大切さをこの研修であらためて考え直し、学ばせていただきました。ありがとうございました。



## < 1. APUの教育システム >

日本に数ある大学の中でも、ここまで「世界に羽ばたき、世界で活躍する」学生の育成を、環境面・システム面から全面的にサポートしている大学は少ないのではないだろうか？「自由・平和・ヒューマニズム、国際相互理解、アジア太平洋の未来創造」という開学理念のもと、世界の延べ130か国・地域から正規留学生（4年間での学士取得を目的とした留学）を集め、さらにその留学生（国際学生）が全学生数の44%を占める。これは単なる国内留学ではなく、大学の中に「小さな地球」が存在するといっても過言ではない。学生の多様性が様々な創造性を生む土壌があり、また教育システムにおいては「クォーター制による集中的な学び」「日英二言語教育」「協調学習システム」など、学生をしっかり学ばせる教育デザインが明確であること、さらに知識だけでなく「経験や交流」を通じた学びに重点をおいている。講義だけでなく、「APハウス」と呼ばれる1,500人が収容できる国際学生寮を持ち、日本人学生（国内学生）もその寮生活の中で、生活習慣や価値観の違いを肌で感じ、お互いに学びあい助け合う環境がある。これは、人間関係が希薄と指摘されている現在の日本人学生にとっては、非常に大きな経験となるであろう。また、国内学生に関しては海外留学を積極的に推進しており、短期から長期まで多様なプログラムが準備されているだけでなく、休学留学に

## < 2. APUの授業の魅力 >

上記でも述べたが、APUの教育は、「システム」としての魅力が大きく、様々な環境整備がなされていることはお伝えした通りである。さらに、APUの魅力は、体制やシステムというハード面だけでなく、授業に対する考え方が旧来の大学とは根本的に異なることである。

大学はこれまで、一方向である「講義形式」が取り入れられてきた長い歴史がある。約100年変わっていないといっても過言ではなく、知識に偏重した学びが主流であった。しかし、APUではこれからの世界で活躍する人物に必要な力は、知識だけではなく、教養・素養や多様性を認め合う気持ちに基づいた、共感力、逞しさ、高い志、主体性、創造力を磨き、その上で協働し、リーダーシップを発揮できる力である。これこそがAPUの考えるグローバル・リーダーシップである。その力を育成するために、APUでは多くの授業で「グループディスカッション形式」が取り入れられている。もちろん、すべての授業ですべての回数というわけではないが、

よる大学在籍料を半期で5000円に抑えるなど、留学することを後押しするような体制も整えられている。

APUの魅力を一言でまとめるとすると「多様性」であり、その多様性こそが創造性を生むという考え方で運営がなされている。国籍はもちろんであるが、大学の授業や運営に多くの学生が参画しており、異文化の中で衝突・協議・合意・行動・検証を繰り返すことにより、自主性が鍛えられていく。このような環境の中で、グローバルリーダーシップに必要な教養や素養が身に付き、自由・平和・人間性の価値観に基づいて行動できる「共感・協働型リーダー」として育っていく。



入学後から多文化交流型授業である「新入生ワークショップ」が必修単位として設定されており、APU型の授業に慣れていくことになる。グループディスカッション形式は、とにかく「ぶつかる」「つなげる」ということの繰り返しが行われる。その中で、様々な考えの共有、異質なものとの協働や競争、そこから創造性や逞しさが養われる。また、立場による遠慮を続けたままでは、自己実現ができないことを認識し、前に出る積極性やチャレンジする姿勢、行動力が身につけていくのである。

これらの力の育成に取り組んでいる中等教育（中学校・高等学校）はまだまだ少ない現状にある。これらの力の育成は大学からではやや遅いくらいであるが、日本の教育が変わっていくためには、まず最高学府である大学の授業から変革していかなければならない。君もこの授業をオープンキャンパス等で体験してみたいだろうか。大学選びを考えるうえで一見の価値はあるに違いない。